パルシステム東京

まちを支える行動が始まる“ひと”便り

となりて vol.3

「となりて」は、“すぐ隣で困っている人を助ける”行動のきっかけづくりをめざして、パルシステム東京が支援する地域のくらしを支える活動を紹介していきます。
今号では、ひとり親家庭への食料支援を行う荒井さんと、「ひきこもり女子会」参加者のみなみさん（仮名）が対談。コロナ禍の現在で“人とつながる意味”について、改めて考えました。

ずっと、あなたを気にかけているよ。

――集まれなくても、人とのつながりを保つ時代へ

コロナ禍で、さまざまなイベントや集まりが中止や休止を余儀なくされ、活動をどう継続するかが課題になっています。こうしたなか、これからの人と人とのつながりを考えるために、立場の違う2人が率直に語り合いました。直接顔を合わせることのむずかしい今、新しい関係の結び方とは？

※今回の対談は2020年8月に、インターネットオンライン通話にて行いました。

＼今回いっしょに話したのは…／

食料支援活動に携わる
荒井 永理（えり）さん

多摩市で母から引き継いだ小規模デイサービスを運営。ひとり親として地域の人々に支えられた経験から、2019年2月に子ども食堂「ほくの家」を立ち上げる。コロナ問題で休止後は、困窮家庭への食料支援活動をスタート。

「ひきこもり女子会 @ パルシステム」
参加者
みなみさん（仮名）

20代の頃に母親の闘病に寄り添い、看取った後にひきこもるようになる。ひきこもりの当事者会に参加してから徐々に回復。現在はボランティアで「ひきこもり女子会@パルシステム」の運営の手伝いも行っている。

実施できなくなった「子ども食堂」と「ひきこもり女子会」

荒井さん　子ども食堂を始めたのは、1年半ぐらい前です。子どもたちが主体となって運営するような理想的な形になりつつあったところ、コロナ問題で食堂形式は中止になり、3月はお弁当の配付のみ。4月から現在の食材配付の活動を始めました。

みなみさん　やはり人が集まるのはむずかしいですよね。「ひきこもり」の当事者会も、なかなか以前のようには開催できていません。最近になってようやく、人数を絞るなどルールを厳しく定めて再開し始めているところもありますが、会場探しなど苦労があるようです。

荒井さん　子ども食堂はデイサービス内で、営業日外の土曜に開いていました。コロナ問題で開けなくなり…課題を抱えている子もそうでない子もここでいっしょに遊び、お年寄りとの間にも交流が生まれたりしていたので、とても残念です。お休みしている今でも、子ども食堂でできたつながりをなくさずに、子どもたちが学校帰りに建物の外から「元気でやっているー？」なんて私たちに叫んでくれるんですよ。

お話の続きはウラへ

新しいツールを利用した居場所づくりや情報共有も

荒井さん　「ひきこもり」の当事者会は、オンラインでも開かれていますか？

みなみさん　はい、オンラインは増えてきています！私も試しに参加してみましたが、大人数の場合、うまく場を回すファシリテーター的な人が必要だと感じました。

荒井さん　実際に人と会うイベントのように、たまたま隣に座った人と自然に会話が始まるというような感じにはなりにくいでしょうね。

みなみさん　そうなんです。ただ、参加者の中には「リアルの会は無理だったけれど、オンラインだから参加できた」という人もいて、目からウロコでした。

荒井さん　たしかにインターネットやSNSなどのツールが普及したからできることもありますね。私は今、企業や個人から提供された食品をひとり親家庭などに分ける活動をしているのですが、配達先でのやりとりや緊急貸し出しなどの情報を共有するのにLINEグループはとても重宝です。ただツールがいくら発達してもみんなが使いこなせるわけではないので、周りにいる人たちが声をかけ合ったり、情報をもっている人につなげたりする努力は、前と変わらず必要ですね。

会えなくても「あなたを思っているよ」と伝えたい

荒井さん　私はひとり親で息子を育てていますが、その息子に近所のおとなの方たちがずっと声をかけてくださっていた。高卒認定も進学も、その声がけが励みだったそうで、それを知って「私も同じように誰かの力になりたい」と思ったのが、子ども食堂を始めたきっかけです。

みなみさん　自分のことを気にかけてくれる存在があるというのは、うれしいものですよね！ 私が当事者会に参加していちばんよかったのも、悩みは違っても、わかろうとしてくれる人と出会えたこと。孤独が癒やされた実感があります。

荒井さん　とくに子どもにとっては、家庭が世界のすべてですから。

みなみさん　そうですよね。その最初の世界で自分が受け入れられていないと感じてしまうと、外の世界に出ていくのも怖くなる。でも、家族以外の多様な人ともっとふれあえれば、救われることも多いはずです。荒井さんの子ども食堂は、まさにそんな場所ですね。

荒井さん　集まるのがむずかしいなか、つながりをどう保ち続けるかが、これからの課題です。

みなみさん　まずは「離れていてもいつも気にしているよ」「本当は会いたいんだよ」と言葉で伝えることでしょうか。具体的に何かが変わらなくても、それだけで「ひとりじゃない」と感じられると思います。

パルシステム東京からフードバンクTAMAを通じて、荒井さんの行っている食料支援活動に青果を提供しています（2019年6月撮影）

「ひきこもり女子会@パルシステム」運営中

一般社団法人 くらしサポート・ウィズ

パルシステム連合会、生活クラブ生協・東京などが母体となり、社会的弱者を支え合い、問題解決に導くために、生協で培ってきたスキルやネットワークを広く社会に還元することをめざす。「くらしの相談ダイヤル」（03-6205-6720／平日10:00〜16:30）では無料で電話相談を受け付けている。

パルシステム東京は、引き続き地域のくらしを支える活動を応援しています

フードバンクを通じての食料支援や、くらしサポート・ウィズの「くらしの相談ダイヤル」をはじめとするさまざまな活動の広報などを行っています。コロナ禍のなかで困っている人を支えられるよう、これからも活動支援を継続していきます。

パルシステム東京と連携する フードバンク

コロナ禍で生活に困窮し、食べものに困っている人が増えているなか、フードバンクの需要はますます高まっています。パルシステム東京は2020年9月現在、6カ所のフードバンクに予備青果の提供を行っており、子ども食堂や社会福祉協議会への食料提供に役立てられています。

特定非営利活動法人 フードバンク TAMA

（2018年4月撮影）

3度の食事を満足にとれない子どもたちに食料を届けるNPO法人。立川、八王子、日野、多摩など西部地域を中心に活動しています（本部は日野市）。メンバーは20人ほどで、全員が無報酬のボランティア団体です。食品メーカーや農家、各家庭から余剰食品の提供を受け、100カ所以上の施設や家庭に配付しています。

各家庭で使わない食料があればご提供ください。お米、麺類、カレーといった調理食品や缶詰など、賞味期限が２カ月以上先のものです！

特定非営利活動法人 フードバンク狛江

まだ食べられるのに廃棄される食品を個人や企業から寄贈してもらい、さまざまな理由で食の支援を必要とする世帯やひとり親家庭を対象に、狛江市と連携してお届けしています。また地域の子ども食堂をはじめ、福祉団体・施設などへも食料提供を行っています。

「もったいない」を「いただきます」につなぐ活動に、あなたもボランティアで参加してみませんか？

人々のくらしを支える さまざまな活動を応援しています。

「自分も活動に参加してみたい」「何ができるかはわからないけど、力になりたい」と思う活動があれば、まずはパルシステム東京 組織部にお問い合わせください。

生活協同組合パルシステム東京
組織部

paltokyo-soshiki@pal.or.jp

http://www.palsystem-tokyo.coop/
〒169-8526 新宿区大久保2-2-6 ラクアス東新宿

子ども食堂やひきこもりの当事者会の活動方法についても、アイデアを募集しています！